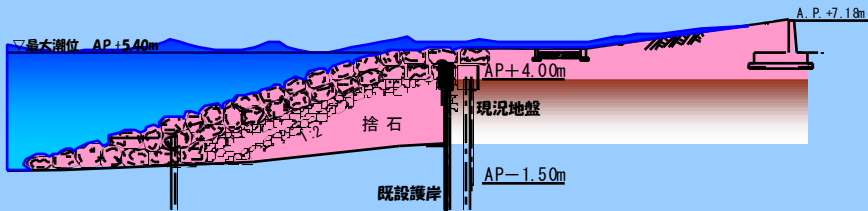


2丁目工事着手から5年後の検証・評価

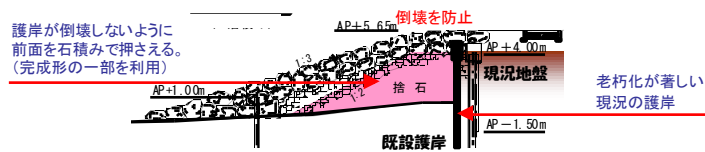
< 防護 >



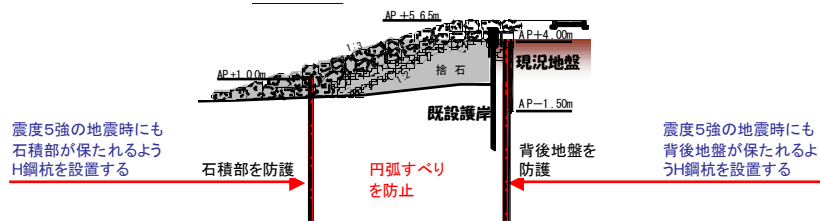
平成24年1月

1. “防護”に対する4つの指標

- ① “緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
◇ 老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。



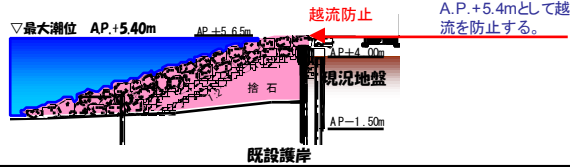
- ② “耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
◇ 震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
◇ “ ” 背後地盤が “ ” 。



③ 最大潮位での”越流防止”への指標

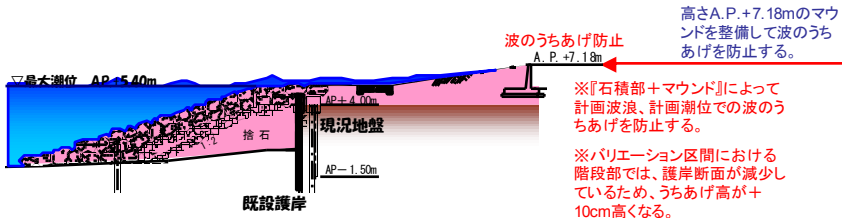
： 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。

◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



④ ”高潮災害防止”への指標： 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。

◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



3

2. 検証基準

目標達成基準

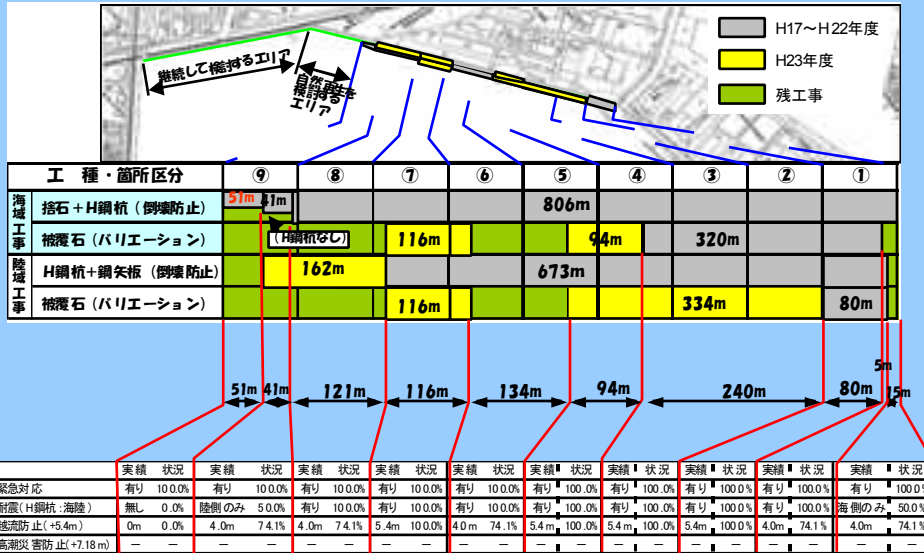
高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成25年度 ※新事業計画より、 完成目標年度とした。	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標が それぞれ施工延長900mにわたって、 ①緊急対応への指標 100% ②耐震の指標 100% ③越流防止への指標 100% ④高潮災害防止への指標 - を確保すること。

注) ④のAP.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、背後地のまちづくりと調整中であるため、数値目標は設定しない。

4

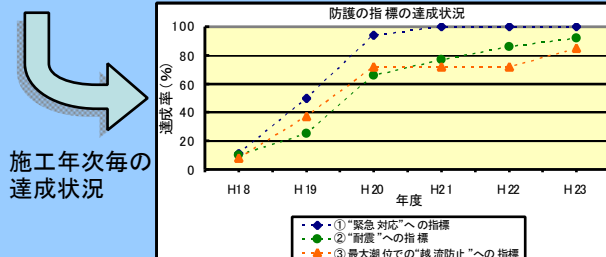
3. H23年度工事の検証結果(工区ごと)



※上表の各評価については、(区間ごとの進捗率) × (区間延長/全体延長) の合計で算出します。

4. H23年度工事の検証結果(指標ごと)

- ① "緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 ⇒ 100/100(完了)
- ② "耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
◇震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
◇ " " 背後地盤が " " ⇒ 92/100(予定)
- ③ 最大潮位での"越流防止"への指標 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。 ⇒ 85/100(予定)
- ④ "高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。 ⇒ 後背地との調整中



施工年次毎の達成状況

5. H23年度工事の評価

7

目標達成
基準

高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。



検証結果

- ① “緊急対応”への指標 ⇒ 100/100完了(100/100)
- ② “耐震”への指標 ⇒ 92/100予定(85/100)
- ③ 最大潮位での“越流防止”への指標 ⇒ 85/100予定(72/100)
- ④ “高潮災害防止”への指標 ⇒ 背後地の街づくりと調整中

注)カッコ内はH22年度



防護の
評価

- ・“緊急対応”が完了済み、“耐震”がH23年度末までに7%向上予定、“越流防止”が同様に13%向上予定である。
- ・平成25年度工事概成に向けて、効率的で効果的な工事の進め方について、周辺環境に配慮しつつ検討していく必要がある。
- ・④“高潮災害防止”への指標についても、背後地のまちづくり計画との調整を進め、高潮災害に対する地域の安全確保を図る必要がある。
- ・なお、H23年度に整備されたバリエーションの50m整備区間の石積み護岸断面面積が減少しているため、高潮防護に対する背後地の必要高さが、標準断面整備区間より高くなることに注意が必要である。